

平成 28 年度「シティ・フューチャー・ギャラリー（仮称）」構想検討会

第 2 回検討会では出された主な意見

ターゲットについて

- ・ ギャラリーなので、人に来てもらうことが第一のポイント。コンテンツは固まってきているので、今後は、来る人がどのようなニーズを持ってくるのか、来場者目線の検討をしていくべき。ペルソナ分析等を行い、海外からの来客を想定することも考えられる。

コンテンツについて

- ・ CFG のメインターゲットであるビジネス客は元々、様々な人や施設から情報を得ているはずなので、その中で CFG に来場して得られるものは何かを整理していくべき。ユニークベニューとして使う、ミーティングの場として使うなどの用途があると良いのではないか。例えば国際会議等が東京で多数行われているが、キーパーソンを招待してパネルディスカッションをしてもらうなど、常に何か動いていることが来場の動機づけにつながる。
- ・ 資料中にユニバーサルデザインに関する言及がある。東京オリンピック・パラリンピックの開催が近づく中で、今まで以上にパラリンピックが注目を集めると考えられる。高齢者だけでなく、障がい者・子ども・妊婦等を含めた様々な方々に配慮できると良い。

情報発信について

- ・ 海外等に情報発信する上では、分かりやすさも重要。CFG で何ができるか、ということを簡潔に明示する方法について、検討してほしい。

3 次元デジタルデータの効率的な収集方法等に関する調査について

- ・ シンガポールでは都市の 3D 化は完了している。都市情報を 3D で管理していくことは先進的な都市でスタンダードになってくると考えられるので、東京でもつくと非常に良い。
- ・ 伊勢志摩サミットでは 3D データがセキュリティに重用された。セキュリティ分野でも、3D データは今後、基礎的な情報として重要になっていくと考えられる。
- ・ 国連大学が発表した「世界リスク報告書 2016 年版」において、日本は「自然災害に見舞われる可能性」の第 4 位。一方で優れた安全性の対策により、総合評価では 17 位となっている。CFG で日本の安全対策を 3D データも活用して見せることができれば、日本に対する安心感を与える、日本でしか見せられないコンテンツになるのではないかな。
- ・ 3D データの活用には大賛成で、都市の外観データは多くの人利活用できるようにするのが望ましいが、詳細なデータでは私的な情報や内密事項も入ってくる。著作権を誰が保有して、どのように使用するか、データ活用をどのようなルールの下で公的な組織が管理するかといったことを検討していくと良い。

- ・ 将来どのような街にしたいかを **3D** で表現することが重要なポイント。また、単に **3D** 表現するだけでなく、環境性やバリアフリー性など様々な指標によるレーティング、資産価値評価などの機能を付加できると、ユーザーにとってより価値のあるものになる。

以上